

市民と市長のふれあいトーク(地域開催) 開催概要

会場 由木東市民センター

日時 令和8年(2026年)3月22日(日)  
14時30分～15時30分

発言者 6名 参加者 48名

No	参加者発言要旨	市長発言要旨
1	<p>市の広報紙に、AIによる電話対応の実証実験を行うという記事があったが、AIによる音声対応では、聴覚障害者は利用することができないと思う。 オペレーターを介し、手話通訳などを利用することができる電話リレーサービスという仕組みがあるが、AIが電話リレーサービスにつないでくれるのか。また、そういったことまで考えて実証実験を行っているのか。</p>	<p>東京都では、手話は言語だということを条例で明記しており、私もそのように認識している。 今回実施しているAIの実証実験における聴覚障害者対応については、後ほど職員が回答する。  (開催終了後、職員から、今回の実証実験は企業からの提案に基づく共創事業として実施しているもので、そこまでの対応はできていないが、市としてAIによる電話対応を導入する際には、いただいたお話を踏まえて検討するよう担当所管に伝える旨を説明。)</p>
2	<p>陽光台団地に住んでいるが、高齢化が進んでおり、将来自治会が存続できるのかが心配な状況であるため、「10年後の多摩陽光台を考える会」を立ち上げ、2年間検討を重ねてきた。 陽光台団地には、多数ではないものの移り住んでくる若い方もいる。そういった方々に自治会に参加してほしいという要望を聞いたところ、高学年になると学童保育の対象とならないことに困っているという話があった。 そこで、近隣大学の学生の協力ももらいながら、子どもに勉強を教えてあげたり、遊んだりする子ども会のような組織を立ち上げることを検討しているので、市としても支援策を考えてほしい。</p>	<p>市の中で、子ども会や町会・自治会は、なくしてはいけないものであるという基本認識を持っているが、存続できなくなっている地域があるのも事実である。 市の予算編成においては、活動に対する支援を意識しており、デジタル化に対する支援なども行っている。 学園都市としてのメリットを活かすため、自身が大学での講義を行い、学生に市内で就職するよう話をしているほか、学生のアイデアを事業化して起業につなげるピッチコンテストの開催も予定している。 また、学生ボランティアに対し桑都ペイの地域通貨付与といった取組も検討している。地域通貨であれば、市内で使ってもらえることができる。物価高騰対策として市民に6,000円相当の地域通貨を付与する事業も予定しており、地域通貨が市民にどの程度定着するのを見たうえで、考えていきたい。 本日お話いただいた内容は、市役所の中で共有する。</p>
3	<p>市長は松が谷にお住まいだったと聞いているが、「松が谷連絡協議会」について御存じか。 松が谷連絡協議会は、賃貸住宅、公社公団、民間住宅の理事により運営されている。最盛期には15団体くらいが加盟していたが、5団体に減ってしまった。 各共同住宅の管理組合から協議会の分担金を支出しているため、住民の中にも協議会のことを知らない人がいる。そこで、今年度、広報紙を発行するなどのPR活動を行った。 広報紙をお渡しするので、地域のために何か援助いただければと思う。</p>	<p>自身が住んでいた頃は、賃貸住宅の管理費のなかに自治会費も含まれていた。松が谷連絡協議会について、具体的に認識はしていなかったが、自治会などの地域活動やイベントに参加する中に、松が谷連絡協議会のものもあったのかもしれない。 認識していなかったことは申し訳ない。広報紙は拝読させていただく。教えていただき感謝申し上げます。</p>
4	<p>桑都の杜について、3年ほど前に障害者が集まり、市の職員と要望懇談会を開催した。その際に、聴覚障害者の防災について考えてほしいという要望を出したが、回答がない。桑都の杜は、障害者の防災について考えて整備しているのか。</p>	<p>市からの回答がなかったことについてお詫びする。市の中で確認させていただく。 障害者に対する施設側の配慮については、必ずやらなければならないものであるという認識を持っている。 桑都の杜の役割の一つとして、災害時の避難所というものがある。施設整備において、誰もが利用できるような、可能な限りの配慮はさせていただいている。  (後日、桑都の杜整備に向けたワークショップで発言いただいた内容に関するものと判明。要望いただいた内容への対応状況について担当所管から個別に説明。)</p>

市民と市長のふれあいトーク(地域開催) 開催概要

会場 由木東市民センター

日時 令和8年(2026年)3月22日(日)  
14時30分～15時30分

発言者 6名 参加者 48名

No	参加者発言要旨	市長発言要旨
5	<p>先ほど、市長から大学へアプローチしているという話を聞き、安心した。 地域コミュニティについて考えると、この地域では住民皆がひとつのことに関与する機会は少ない。その中で、市民センターまっぴりは核となるものの一つだと思う。仲間を見つけ、楽しくする場所をつくるのが大切で、それがあれば皆が集まってくると思う。 行政に要求すればやってくれる、という考えではなく、その土地の自立を考えて、そうした原点に戻らなければいけない時期に来ていると思う。</p>	<p>各市民センターを中心として、どのように関わって地域づくりをしていくのかということは、日々悩んでいるところの一つである。 多摩ニュータウンは、かつては子ども達が多く、小中学校も大規模だったが、子どもの数が減り、場所によってはクラスが成り立たなくなっている。校舎の老朽化が進む中で、学校統廃合の話も出てきている。 市長として教育行政にかかわれる部分は限られているが、教育委員会に対しては、学校統廃合は検討ではなく、決断の時期に来ているという話をしている。 具体的に動き出す中では、学校を含めたまちづくりについて、点ではなく地域全体の面で考えていかなければならない。地域の方々が集まり、コミュニティが維持できれば、市外からも人が入ってきてくれると思っている。 八王子市では、生まれる子どもの数や転入者数は保たれているが、亡くなる方が増えているため人口が減っている状況である。八王子市を選び、転入する方がいる中で、コミュニティを維持するためにも、まちづくりの視点を持って、顔の見える関係をこれからも作っていききたい。</p>
6	<p>数年前から、松が谷を通る聖蹟桜ヶ丘行きのバスがなくなった。一本でもいいから直通のバスがほしい。 はちバスの再編では、松が谷地区を通るルートができるのか。</p>	<p>はちバスの再編については、担当からお答えする。 バスの減便は本当に切実な問題であり、市内のバス会社には減便しないようお願いをしているが、各社が運転手を募集しても人が集まらない状況もあり、難しい。 そこで、市としてはバスの自動運転に取り組んでおり、まずは高尾で実施し、先日、東京工科大学のスクールバスでも開始した。また、八王子駅南口から桑都の杜への自動運転についても予定している。 自動運転では事故も発生したが、原因を究明し、皆さんが事故なく安心して乗っていただくことができるよう、取り組んでいく。  (職員から、はちバスは聖蹟桜ヶ丘までは運行しないので、電車を利用していただきたい旨を説明。)  職員から説明したとおり、はちバスは市が運行するものであるため、市外までは運行できないことを御理解いただきたい。</p>